



そんなとんかつカンティーマのオープンからちょうど1年後、

緊急事態宣言の発出とともに、世界はコロナ禍に突入。

2020年4月の時点で、店内飲食を一時休止することを決めました。

そしてテイクアウト商品販売だけの「デリカテッセン業態」に

疑似転換し、「おうちごはんの、テンションを上げる！」ための

様々なデリ商品を、「おうちでカンティーマ」商品と

(ブランド名として) 銘打って、販売してきました。

そして結果として2年以上もの間営業を続けることとなった  
デリカテッセン業態を、2022年5月、とうとう終了し、  
また店内飲食の業態に戻す準備に、取り掛かり始めました。

その準備にはある一定以上の時間をどうしてもかけることが  
必要と考えていたため、そのための準備期間、兼、ゆるやかに  
店内飲食の形態に戻していくためのクッション期間、として、  
期間限定で、カフェ業態”café Kobuta”に再転換しました。



café Kobuta

un café,

c'est un événement.

コロナ禍の2年間で、社会の形は、大きく変わったと考えています。

この先コロナ禍が完全に収束したとしても、ウクライナ情勢が  
もし仮に奇跡的に安定的な決着を迎えたとしても、  
もはやこの世界が、この日本社会が、それ以前の形に戻るとは、  
私は考えていません。

おそらくこの社会に生きる半数以上の方々においては、  
ものごとの価値観、金銭的感覚、人生観、生活のスタイルやサイクル、

そういったものが、すでにある程度以上、変化しているのでは  
ないかと、私は想像しています。

そしてその変化は、今まで日本社会をずっと支配してきた、  
停滞感、膠着感、閉塞感の根本的原因であった、  
「社会構造の中の、対流しない泥沼部分」から、足を引っこ抜くような  
きっかけを初めて得られたような、そんな変化なのではないかと、  
私は、肯定的に捉えています。

まだしばらくの間は、そんな昔からの泥沼部分から  
足が抜けたこの機会にさっさと離れてしまいたい、と考える人と、  
未だにその泥沼に浸かっているほうが身動きせずに温かいままで  
いられる、と考える人との間で、  
意見の相違はくすぶり続けるかもしれません。

でも私は、そんな泥沼には戻りたくないと考えている側の人間で、  
同じように考える人たちこそが、きっとこれから新しい社会の形を  
作っていくのではないかと思います。

そんな来たるべき、これからの社会の形…

そのためにこそ、新しいコンセプトを「プラス」アルファした  
新しいとんかつカンティーマユめみるこぶたが、、、

とんかつカンティーマユ+ (プラス)

ゆめみるこぶた

として、2022年秋、再始動しました。